

紙媒体とグループウェアを活用した文書の一元管理の実践と課題について

○宮林 皇史、佐野 雅隆、金子 雅明、田中 宏明、森松 静、進藤 晃

【目的】

医療にも組織的な質の保証が求められ、文書化による医療活動基盤の構築とその文書管理は必須となったが書式の更新が頻回に行われるなど、その管理は煩雑である。そこで当院では、2007年よりQMS（Quality Management System）活動の一環として文書管理を開始したが、数年が経過すると文書承認から登録までを管理できない状況が発生していた。そこで、紙媒体による文書承認とグループウェアを活用した文書登録システムを再構築し運用を開始したのでその取り組みについて報告する。

【方法】

1. 文書承認願用紙の作成
(文書作成者が主管部署、文書名、所属長印、申請理由等を記入)
2. 文書承認依頼書の作成 (承認者の承認可否回答用紙)
3. 承認者MAPの作成 (文書ごとの承認者をマトリクスで判断できる一覧表)
4. 文書登録システムの構築 (グループウェアに文書データを格納)
5. グループウェア掲示板で周知。
6. 1～5に沿った運用手順の作成

【結果】

紙ベースによる承認作業により期限管理の意識付けや承認プロセスが明確化され、これまで約1か月以上かかっていた新規文書の運用開始が約2週間に短縮された。また、グループウェア内のデータベースに文書を登録したことで各部署の端末からいつでも文書閲覧・検索が可能となり掲示板で全体周知できるようになった。しかし、紙運用による弊害として申請書類の増加に伴う原紙管理業務の増加、グループウェアではデータの登録・閲覧・検索は機能したが、職員から使いにくいとの声もあり活用されない状態となった。

【考察】

一元管理体制の構築で承認から文書の使用まではスムーズに実施できるようになったが、2つの媒体（紙とデータ）を使用していることによる問題点や職員にとって使いやすいシステム構築の必要性が見えた。今後は文書が活用される環境を目指し、文書管理を医療の質改善活動に繋げていきたい。

紙媒体とグループウェアを活用した文書の一元管理の実践と課題について

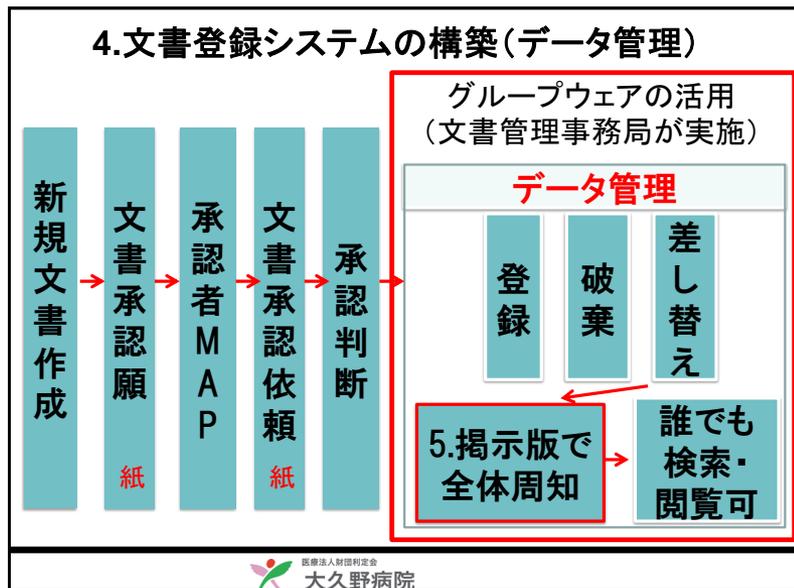
1)宮林 皇史

- 1) 医療法人財団 利定会大久野病院
 - 2) 地方独立行政法人明石市立市民病院
 - 3) 東海大学情報通信学部経営システム工学科
 - 4) 千葉工業大学 社会システム科学部 経営情報科学科
- 4)佐野 雅隆 3)金子 雅明 2)田中 宏明 1)森松 静 1)進藤 晃

当院の概要

- ・ 開設者 医療法人財団 利定会 平成11年設立
- ・ 病床数 158床
 - 回復期リハビリ病棟 1病棟 50床
 - 医療療養病棟 1病棟 50床
 - 介護療養型医療施設 1病棟 58床
 - 内科・リハビリテーション科・皮膚科
- ・ 病院外事業
 - 進藤医院(訪問診療)
 - 訪問看護ステーション
 - 居宅介護支援事業所
- ・ 委託事業
 - 西多摩地域リハビリテーション支援センター
 - 西多摩地域高次脳機能障害者支援センター
 - 日の出町地域連携型認知症患者医療センター



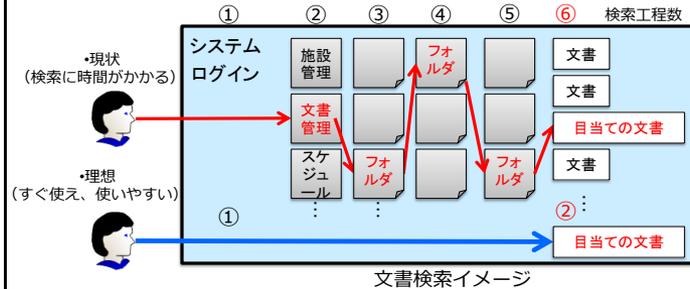


紙媒体による文書承認とグループウェアを活用した文書登録システムを運用した… 結果

- 文書開始までの期間：約1ヶ月 → 約2週間に短縮
具体例：承認要求18名⇒1週間で回答が揃う⇒14日目に使用開始
(文書承認プロセスの明確化、承認期日の順守)
- 登録文書がいつでも、どこでも閲覧できる環境整備
- グループウェア掲示板を利用した全体周知
(閲覧可能PC台数：全66台、約3名に1台の割合)
 - ・ 運用が継続され文書管理手順が浸透
H27年運用開始→78文書が新規登録

課題

- 事務作業量の増加
(申請書などの原紙管理、コピー等)
- 文書を探すのに時間がかかる
- 検索機能が使いにくい (本文検索できない)



7

考察

新たな文書管理システムにより文書が一元管理され承認から文書使用までをスムーズに実施できるようになったが2種類の媒体 (紙とデータ) を使用していることによる課題や職員にとって使いやすいシステム構築の必要性が見えてきた。

8

今後は院内で文書が活用される環境を目指し、紙媒体を使用しない文書管理プロセスや職員が使いやすい文書管理システムを構築または導入することで、文書管理を医療の質改善活動に繋げていきたい。

ご清聴ありがとうございました。